

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和２年度採択）

F S（革新的研究調査）評価（公表用／ハード分野）

番号	F S 研究名	研究代表者	評 価
2020-7	走行中ワイヤレス給電のコイル埋設についての研究	東京理科大学 准教授 居村 岳広	B
<p><研究の概要></p> <p>走行中充電における道路側コイルの電気的特性と機械的強度向上させた上で、アスファルトへの埋込み技術確立を目的とする。電気的特性(効率・電力など)と機械的特性(耐久性など)を従来コイルと比較し、経年劣化の評価を行い、埋込み深さの最適化、低コストコイル等の可能性を示す。</p> <p><FS評価結果></p> <p>FS 研究により成果の見通しを一定程度示し、またそれを踏まえた研究計画を提示していることから、新規研究として採択することが妥当と評価する。なお、実施にあたっては、特記事項に留意していただきたい。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定される耐用年数に基づく更新も踏まえたコスト、電磁界の人体や周辺環境への影響、漏電対策の安全性に関する検討を取り入れた研究計画としていただきたい。 ・次の段階(室内試験から学内道路埋込試験、学内道路埋込試験から実物大試験走行試験)に進むにあたり確保すべき性能をあらかじめ明確にして、その性能が確保できたことを確認した上で次の段階の試験を進めていただきたい。 ・給電効率悪化の解決、コイルの埋設技術自体の改善、実用化のためのプレキャスト工法の検討など、社会実装を目指した研究計画としていただきたい。 ・ケースとして道路内に埋め込まれた場合の道路性能・耐久性等の目標性能を明確にした上で研究を進めていただきたい。 ・研究期間終了後も継続が必要な計画であることに加え、SIP の後継プロジェクトでも走行中充電が研究される予定となっている。申請者も共同研究機関として関わることに言及しており、新道路技術会議の成果として社会実装されるまでの見通しを明確にいただきたい。 			

※本 FS 評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 42 回新道路技術会議において審議したものである。